

令和  
8  
年度

茅ヶ崎市

# 高齢者帯状疱疹 定期予防接種説明書



## 帯状疱疹とは

帯状疱疹は、過去に水痘にかかった時に体の中に潜伏した水痘帯状疱疹ウイルスが再活性化することにより、神経支配領域に沿って、帯状に時に痛みを伴う水疱が出現する病気です。合併症の一つに皮膚の症状が治った後にも痛みが残る「帯状疱疹後神経痛」があり、日常生活に支障をきたすこともあります。

## 令和8年度の対象者

接種日現在、茅ヶ崎市に住民登録があり、次のいずれかに該当する方

- ・**年度内**に65歳を迎える方
- ・**接種日**に60歳以上65歳未満でヒト免疫不全ウイルスにより免疫の機能に障がいのある方（身体障害者手帳1級相当）
- ・**年度内**に70、75、80、85、90、95、100歳を迎える方（令和11年度までの経過措置）

年齢	生年月日	年齢	生年月日
65歳	昭和36年4月2日～昭和37年4月1日	70歳	昭和31年4月2日～昭和32年4月1日
75歳	昭和26年4月2日～昭和27年4月1日	80歳	昭和21年4月2日～昭和22年4月1日
85歳	昭和16年4月2日～昭和17年4月1日	90歳	昭和11年4月2日～昭和12年4月1日
95歳	昭和6年4月2日～昭和7年4月1日	100歳	大正15年4月2日～昭和2年4月1日

※ 表内の年齢は年度内に迎える年齢

## 令和8年度接種期間

令和8年4月1日（水）から令和9年3月31日（水）まで  
（組換えワクチンの場合、2回目も年度内に接種する必要があります。）

## ワクチンの種類・接種回数・費用

帯状疱疹ワクチンには生ワクチン「ビケン」、組換えワクチン「シングリックス」の2種類があり、接種回数や接種方法、効果とその持続期間、副反応などの特徴が異なりますが、いずれのワクチンも、帯状疱疹やその合併症に対する予防効果が認められています。

	生ワクチン ビケン	組換えワクチン シングリックス
接種方法	皮下に注射	筋肉内に注射
接種回数と間隔	1回	2回（2か月の間隔をあける）※1
接種条件	病気や治療によって、免疫の機能が低下している方は接種できません	免疫の機能に関わらず接種可能
接種費用	4,500円 ※2	1回あたり 11,800円 ※2

※1 病気や治療により、医師が早期の接種が必要と判断した場合、接種間隔を1か月まで短縮できます。

※2 対象者のうち生活保護の方は接種費用が免除されます。

## ワクチンの効果

ワクチンの効果		生ワクチン ビケン	組換えワクチン シングリックス
	接種後1年時点	6割程度の予防効果	9割程度の予防効果
	接種後5年時点	4割程度の予防効果	9割程度の予防効果
	接種後10年時点	—	7割程度の予防効果

※ 合併症の一つである、帯状疱疹後神経痛に対するワクチンの効果は、接種3年時点で、生ワクチンは6割程度、組換えワクチンは9割以上と報告されています。

## 接種を受けることができない方

- 体温が37.5℃以上の方
- 重篤な急性疾患にかかっている方
- ワクチンの成分に対し、アナフィラキシーなど重度の既往歴のある方
- その他、医師に不適当な状態と判断された方

## 予防接種の副反応について

ワクチンを接種後には、以下のような副反応がみられることがあります。

頻度は不明ですが、生ワクチンについては、アナフィラキシー、血小板減少性紫斑病、無菌性髄膜炎が、組換えワクチンについては、ショック、アナフィラキシー、ギラン・バレー症候群がみられることがあります。接種後に気になる症状を認めた場合は、接種した医療機関へご相談ください。

主な副反応の発現割合	生ワクチン ビケン	組換えワクチン シングリックス
70%以上	—	疼痛
30%以上	発赤	発赤、筋肉痛、疲労
10%以上	そう痒感、熱感、腫脹 疼痛、硬結	頭痛、腫脹、悪寒 発熱、胃腸症状
1%以上	発疹、倦怠感	そう痒感、倦怠感、その他の疼痛

(厚生労働省にて作成)

## その他の注意事項

- 予防接種を受けることは義務ではなく、ご本人が接種を希望する場合のみに行うものです。
- 予防接種について分からないことがある場合には、予防接種を受ける前に医師や看護師に質問し、納得した上で接種を受けましょう。
- 医師の診察の結果によっては、予防接種が受けられない場合があります。
- 接種を受ける本人が署名できない場合、代理人（家族）が被接種者署名、代筆者氏名及び続柄の3か所を記入してください。
- 接種後30分は急な副反応が現れることがあるので、医師とすぐに連絡が取れるようにしましょう。
- 予防接種を受けた日の入浴は差し支えありませんが、激しい運動や大量の飲酒は避けましょう。
- 異常があった場合は、早目に医師の診断を受けてください。
- 本剤の接種により健康被害が発生した場合は、国により**予防接種健康被害救済制度**が設けられています。
- （生ワクチン接種の場合）輸血やガンマグロブリンの注射を受けた方は治療後3か月以上、大量ガンマグロブリン療法を受けた方は治療後6か月以上置いて接種してください。
- （組換えワクチン接種の場合）筋肉内に接種をするため、血小板減少症や凝固障害を有する方、抗凝固療法を実施されている方は注意が必要です。